

宮崎龍介 みやざきりゅうけい 辯護士、民族主義運動家。明治二十五年十一月二十日熊本縣玉名郡荒尾生れ、昭和四十二年一月二十三日没（一九二二—一九七二）。宮崎滔天の長男。第一高等學校を経て、大正九年東京帝國大學法學部法律學科卒。辯護士開業。在學中赤松克麿等と新人會を、矢野龍巖等とマジヤ學生聯盟を組織して學生運動の波頭。同年雜誌『解放』編輯長、翌年炭鑛王と別れた柳原白蓮と結婚。また社會民衆黨等の副長として活動し、昭和八年無産運動のうねりに民族主義の旗を、マジヤ各團の嚮と運動を助勢。就中インテグリスとの交情が深かった。十一年（一一）六事件の刺戟せられて愛國運動の統合化を策し、島中雄三、小池四郎、津入井龍雄等と一月會を興す。翌年中戦時和平工作の密使となるも失敗。十四年東方會に加盟。戦後は憲法擁護同盟民権会結成に参劃、のち代表委員。二十一年の本中山會を設立。

譯書は、『ステパニヤノ書』、『地底の露西亞—革命物語』（大正九年四月二十一日大鐘閣）のほか、他、著書『對外交論』（昭和二年七月二十日青雲閣書房）『民衆政治講座』（『支那の知識』）他十四名合著、清澤洵・里沢高治共編、昭和十一年八月二十一日青年書房『時評の知識』（ライズ）等刊。

